【小学校5～6年生】「やってみたい！」本人なりの“わけ(理由)”を尋ねてみましょう

小学校の高学年になり、行動範囲や興味・関心が広がってきた子供が、「〇〇をやってみたい」と言い出した時、あなたならどうしますか？

「やってみたい」ことの内容にもよりますが、親が勝手に想像した理由（例えば、危ない、この子には無理、勉強の役に立たない、など）でダメだと言ったり、“簡単にOKを出すことは親としてどうだろう？”と思って子供がやってみたいことを否定したり拒むことがあるかもしれませんね。ですが、そのような時は、ぜひ、「ふ～ん、いつ、そう思ったの？」「へ～、何でそう思ったの？」などと尋ねてみてください。子供が、今、それを言いだした「わけ」を、ぜひ尋ねてみてください。

親が疑心暗鬼な態度で質問すると、その態度に反応して、子供は自分の気持ちや考えを言い出せなくなることもあります。「どうして？！」という、抽象的で、時に詰問ムードになりそうな問い方は子供にとっては答えるのが難しいものです。「いつ、そう思ったの？」という質問を膨らませて「どんなところに興味をもったの？」「他に誰がやっているの？」など、穏やかに興味ありげに質問し、また「それで、それで？」と誘い水になるような言葉を掛けていくと、子供からも具体的な返事が返ってきます。不思議ですね。

「ワケ」を尋ねても、「わかんない」という返事が返ってくる場合もあります。そのような時には、「お母さんはこんな風に思うのだけれど、あってるかな～」など、アンケート方式で尋ねるのも一案です。子供は、答えていくうちに、頭の中が整理され、自分の考えていることが明確になっていきます。「ただ友達に誘われたから」とか、「ちょっとまずいかなと思いながらもNOと言えないから」「危ないかなとは思うけれどとにかくやってみたい」など、なぜやってみたいと言い出したのか、経緯が分かるときがあります。

やりたいことが習い事だったり、遠出することだったりすると、お金がかかるとか、危険が想定されるなど、そのままでは OK を出せない時もありますね。そんな時は、状況を丁寧に伝えて一度預かり、親として検討してみてください。

子供がやりたいと言ったことが複数あって、親にも子供にも余裕があるならば、いくつかやらせてみてもよいかもしれません。 お金に余裕がないとか、年齢的にまだ認められないなど、どうしてもOKが出せない理由があった場合は、率直に事実を伝え、子供に考えさせる時間を与えてください。子供なりに、色々なことを天秤にかけて考えることでしょう。この「考える時間の余裕を持たせること」が、自立の一歩です。親がOKしたことだけで育つ子供は、チャレンジすることを回避するようになりかねません。だからといって何でもやらせることもできないし、親としてやらせたくないこともありますね。親から状況の説明を受けたら、子供自身が考えて、決めていけると良いですね。

そして、子供から「やっぱり辞めておく」という反応が帰ってきたら、できればそのわけを尋ねてみてください。子供の考えるプロセスを共有して、大人への道に向かう彼らをサポートしたいものです。

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット　「結」相談員　森　裕子・蟇田　薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
（運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット）

蟇田さん

森さん

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1 か月ごとの定期相談やすぐに実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。

※執筆者の肩書等は、令和 2 年(2020 年)3 月現在のものです。